

施策評価管理シート

2022(令和4)年6月作成

施策体系	政策	1	支え合い 健康でいきいきと暮らせるまち	担当部局(室)名	部局長名
	基本施策	2	保健・医療・福祉のネットワークづくり		
	施策	3	地域医療	福祉子ども部	田中 克広

1. 施策の基本方針(目指す将来像)



- 市立病院を核とする地域医療機関との機能分担と連携を強化して、安心して信頼できる地域医療体制を構築します。
- 伊賀地域における安心して安定した救急医療体制を確立するため、関係機関と連携しながら地域内の病院の機能分担と連携の強化をさらに進めます。

2. 令和3年度の実績内容及びその成果



- ・伊賀地域の救急医療を担う上野総合市民病院、岡波総合病院と名張市立病院で定期的に開催する「伊賀地域二次救急医療に係る意見交換会」において、地域における安心して安定した救急医療について、3病院で輪番体制を維持しながら、二次救急医療体制の継続を確認するなど、連携強化や医療体制の確保に努めました。
- ・三重大学等による寄附講座の開設により、市立病院への派遣医師の確保を図りました。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、三重県からの委託を受け、引き続き、市と名賀医師会が協働して、名張市PCR検査センターを開設し、PCR検査を受けやすい環境を整備するとともに、地域医療体制を確保し、感染拡大防止の取組を進めました。
- ・地域の一次救急医療を担う名張市応急診療所の運営を行いました。
- (市立病院関係)
 - ・公立病院としての役割を果たすため、新型コロナウイルス感染症患者の受入を救急要請も含め地域医療機関の中心となり積極的に行いました。
 - ・新型コロナウイルス感染症の対応を最優先したことやコロナ禍の長期化により、令和3年度も地域医療機関からの紹介件数の増加を目的とした地域開業医の訪問は先送りとなりましたが、開業医との連携を高めるため病院独自の地域医療連携ニュースを作成し定期的な発行を開始しました。
 - ・病院事務局の機能及び体制強化につなげるためプロパー職員を1名増員し、事務局職員21人中8名(令和3年度)としました。
 - ・令和4年1月に名張市立病院在り方検討委員会を設置しました。市立病院の医療提供体制や経営形態の在り方について審議いただき、令和4年度中に答申をいただく予定です。

3. 施策指標(目標)の達成状況



施策指標(目標)の内容(単位)		基準値(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	進捗率
地域医療機関(開業医や公立病院等)での現在の医療体制に満足している市民の割合(%)	目標	-	-	-	-	-	50.5	
	成果	48.8	53.8	53.4	57.6	60.0		100.0%
かかりつけ医を決めている人の割合(%)	目標	-	-	-	-	-	85.0	
	成果	77.7	78.9	77.1	74.7	73.7		0.0%
地域医療機関等から市立病院への紹介件数(件/月)	目標	-	-	-	-	-	554	
	成果	527	491	482	481	497		0.0%
市立病院から地域医療機関等への紹介件数(件/月)	目標	-	-	-	-	-	529	
	成果	526	524	478	470	521		0.0%

4. 成果や施策指標の状況を踏まえた課題や現状の分析



- ・限られた医療資源を効率的かつ効果的に機能させることが必要です。
- ・かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師をそれぞれ持つことにより、日頃からの健康管理や病気の予防・早期治療につながるのと同時に、かかりつけ医等が介護と医療の連携による在宅医療においても中心的な役割を果たすことを周知啓発していくことが必要です。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響等による患者の大幅な減少や、医療業務を委託している名賀医師会の医師の高齢化など、応急診療所を取り巻く環境が大きく変化する中で、医師の確保などの体制整備等が課題となっています。
- (市立病院関係)
 - ・医師確保面では、常勤医師数は32人で対前年度比で現状維持でありました。うち1名は初期研修医です。過去には最大で7名の時期があったことを考えると、将来的な医師確保に向けた研修医の採用が必要な状況です。
 - ・新型コロナウイルス感染症の対応を優先する中でも地域医療機関等からの紹介件数は対前年度で増加しました。今後もウイズコロナ・アフターコロナを考慮した地域医療機関との連携強化に取り組む必要があります。

5. 分析結果を踏まえた施策の取組内容（令和4年度以降）



- ・伊賀地域の二次救急医療体制を確保するため、限られた医療資源を有効活用し、3病院による輪番体制を維持・継続します。
 - ・伊賀地域医療構想調整会議において、2022年末の地域民間病院の移転を踏まえ、地域の実情に合わせた病床の機能転換や急性期機能のあり方等、伊賀地域の医療体制の方向性について協議を行います。
 - ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、引き続き、名賀医師会と協働して名張市PCR検査センターを開設し、感染拡大防止の取り組み、地域医療体制を確保に努めます。
 - ・身近なかかりつけ医師等を持つ人の増加に向け、市ホームページや庁内モニター等により周知啓発に努めます。
 - ・名賀医師会等の協力のもと、応急診療所での時間外の一次救急医療の確保及び一次・二次救急の役割分担、適正受診の促進等の啓発を行うとともに、医師の確保などの体制整備等を進め、安心できる一次救急医療体制を継続します。
- (市立病院関係)
- ・地域医療機関との連携強化のほか、研修医の採用、またリニューアルしたホームページやSNSを活用し患者サービスの向上につながる情報発信に努めます。
 - ・今後、市内開業医の高齢化に伴う医療提供サービスの低下が懸念されますし、新興感染症に対して適切に対応可能となる医療機関が求められます。医療計画に則った事業展開を行うとともに地域医療機関と更なる連携・協力体制を築きます。そのために、コロナ禍の状況を考慮しつつ地域開業医への訪問を速やかに実施します。
 - ・これまで救急医療を中心としていましたが、当院の強みをアピールするとともに、地域ニーズに適切に対応することで地域医療機関との連携強化を図ります。また、患者構成についても救急依存型ではなく、地域からの紹介患者、予定患者の拡大に向けた取組を推進します。
 - ・市立病院在り方検討委員会からいただく予定の答申のほか、市民や市議会からの意見等を踏まえながら、地域の医療提供体制の在り方について検討します。

施策を構成する主な事務事業

*R3決算額が事業費1,000千円以上の事務事業を掲載しています（施設等維持管理、内部管理事務の事業を除きます）。

*R4予算は、R4.4.1時点での金額を記載しています。（R3からの繰越額含む。）

*R4予算のみ金額が記載されている事務事業（新規事業）は、R4の事業内容（計画）を記載しています。

単位:千円

会計	事務事業名	部局名	室名	令和3年度内容	R3決算額 (見込)	うち 一般財源	R4予算額
一般	医療体制推進 寄附講座開設 事業	福祉子ども 部	医療福祉総 務室	関係大学に対して寄附講座を設置し、専門性の高い医療の研究を進めるとともに、名張市立病院への医師派遣等により、伊賀地域における二次救急医療の確保を図りました。	36,074	30,074	36,075
一般	医療体制推進 費	福祉子ども 部	医療福祉総 務室	夜間・休日の一次及び二次救急患者の受入体制を確保するとともに、救急医療の適正受診を促進し、地域で安心できる医療体制の整備を図りました。 ・年末年始在宅歯科応急診療委託 ・一次救急医療体制事業委託 ・救急医療情報システム運営事業	4,008	3,686	4,101
一般	病院群輪番制 病院運営事業	福祉子ども 部	医療福祉総 務室	伊賀地域の二次救急医療に対応するため、名張市立病院・上野総合市民病院・岡波総合病院が行う救急輪番体制を整備するために必要な運営経費の一部負担を行いました。また、岡波総合病院に対しては、民間病院救急医療体制整備に係る一部負担を行いました。	49,518	22,973	48,762
一般	看護師等修学 資金貸付事業	市立病院	総務企画室	市内医療機関において看護師等を確保し、地域の保健医療の充実につなげるため、看護師等を志し将来的に市内の医療機関に勤務する意思を有する者に修学資金を貸与しました。 ・貸与者 看護師29人(3年生:10人、2年生:11人、1年生8人)	6,960	6,960	8,592
公 営 企 業 会 計	病院事業会計	市立病院	総務企画室	市民の命と健康を守るため、良質で高度な二次医療・救急医療等を提供するため公立病院を地方公営企業として運営します。令和3年度は長期化する新型コロナウイルス感染症の対応にも公立病院の役目として積極的に取り組み、地域住民の安全安心に貢献しました。	6,123,805	-	6,319,739